

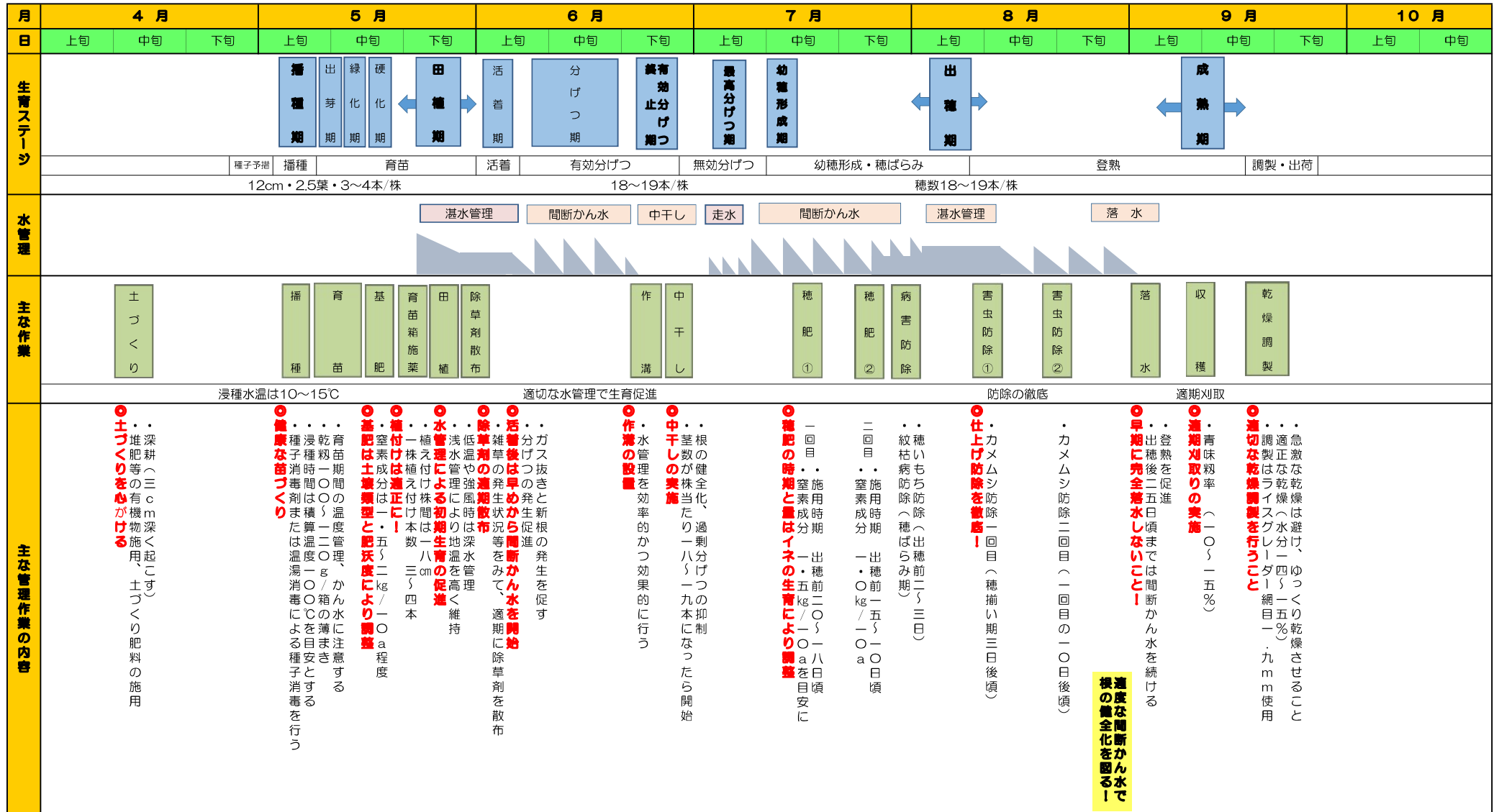
5月下旬田植え「コシヒカリ」栽培暦

■ねらい

無効分けつの少ない、すっきりしたイネづくりで乳白粒の発生を抑え、良質・良食味米をつくる

■収量と収量構成要素の目標値

栽植密度 株/㎡	最高莖数 本/㎡	穂数 本/㎡	一穂粒数 粒/穂	粒数 粒/㎡	登熟歩合 %	玄米千粒重 g	10a収量 kg/10a
18.5	420	350	80	28,000	83	22.0	510



「つや姫」栽培ごよみ (特別栽培基準)

主な品種特性

- ①高直登熟性に優れ、高品質である
- ②食味が良い
- ③短粒で倒伏に強い
- ④葉が直立し受光体勢が良い

特別栽培基準

- 化学肥料
 有機肥料使用量(施肥の目安 5.0kg/10a)のうち
 化学肥料の窒素成分量の合計 4.0kg/10a以下
- 化学合成農薬
 防除対象農薬使用回数(成分) 10回以下

◇生育・収量目標と収量構成要素

㎡当たり植付株数	1株穂数	㎡当たり穂数	1穂粒数	㎡当たり粒数	登熟歩合	玄米千粒重	収量(精玄米)
株/㎡	本/株	本/㎡	粒/穂	粒/㎡	%	g	kg/10a
18.5	18.9	350	80	28,000	82	23.0	525

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月		
	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬		
生育ステージ		出芽期	緑化期	硬化期	田植期	活着期	分けつ期		有効分けつ終止期	最高分けつ期	幼穂形成期		出穂期						成熟期		
水管理					湛水管理	間断かん水		作溝	中干し		走水	間断かん水	湛水管理	間断かん水	落水						
主な作業	土づくり	播種	育苗	基肥	育苗箱施薬	田植	除草剤散布		作溝	中干し		穂肥	仕上げ防除		落水	収穫	乾燥調製				
主な管理作業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ●土づくりを心がける ・堆肥等の有機物施用による土づくりを徹底する 	<ul style="list-style-type: none"> ●適度な温度管理 ・育苗期間の温度管理、かん水に注意する ・乾期120g/箱の薄まきに努める ・浸種時は積算温度100℃を目安とする ・種子消毒剤または温湯消毒による種子消毒を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ●基肥の施用 ・地方の高いほ場では窒素成分1kg/10a程度減肥する ・地方の低いほ場では窒素成分1kg/10a程度増肥する 	<ul style="list-style-type: none"> ●適正な田植 ・(特別栽培基準に注意！) ・地方の高いほ場では窒素成分1kg/10a程度減肥する ・地方の低いほ場では窒素成分1kg/10a程度増肥する 	<ul style="list-style-type: none"> ●除草剤の適期散布 ・雑草の発生状況等を見て、適期に除草剤を散布 	<ul style="list-style-type: none"> ●水管理による初期生育の促進 ・植え付け株数六十株/坪(株間十八cm・条間三〇cm) ・一株植え付け本数 三〜四本 ・植え付け時期 五月上旬〜下旬頃 	<ul style="list-style-type: none"> ●中干しの実施 ・根の健全化、無効分けつの発生防止 ・茎数が株当たり二十本程度になったら開始 	<ul style="list-style-type: none"> ●作溝の設置 ・水管理を効果的かつ効果的に行う 	<ul style="list-style-type: none"> ●穂肥の散布 ・施用時期 出穂前二五日頃 ・窒素成分 二・〇kg/10aを目安に ●穂肥の適期散布を心がける (特別栽培基準に注意！) 幼穂長 1mm 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕上げ防除を徹底！ ・穂揃い期3日後頃 	<ul style="list-style-type: none"> ●適切な乾燥調製を行うこと ・青刈率 一〇〜一五% ●適期刈取りの実施 ・登熟を促進 ・出穂後二五日頃までは間断かん水を続ける ●早刈りに完全落水しないこと！ 										
主な病害虫・雑草防除	<ul style="list-style-type: none"> ●病害 ・ばか苗病等 ・もみ枯病 ・いもち病 	<ul style="list-style-type: none"> ●立枯病 ・△立枯防止 	<ul style="list-style-type: none"> ●イネカサネ ・イネカサネ等 ・イネミスソウムシ ・いもち病 	<ul style="list-style-type: none"> ●雑草防除 ・その他水田雑草等 ・ヒエ 	<ul style="list-style-type: none"> ●仕上げ防除 ・ウンカ類等 ・カメムシ ・穂いもち 																

「ハナエチゼン」栽培暦

■栽培適地等

1. 地力中庸からやや肥沃地に適する。

■長所

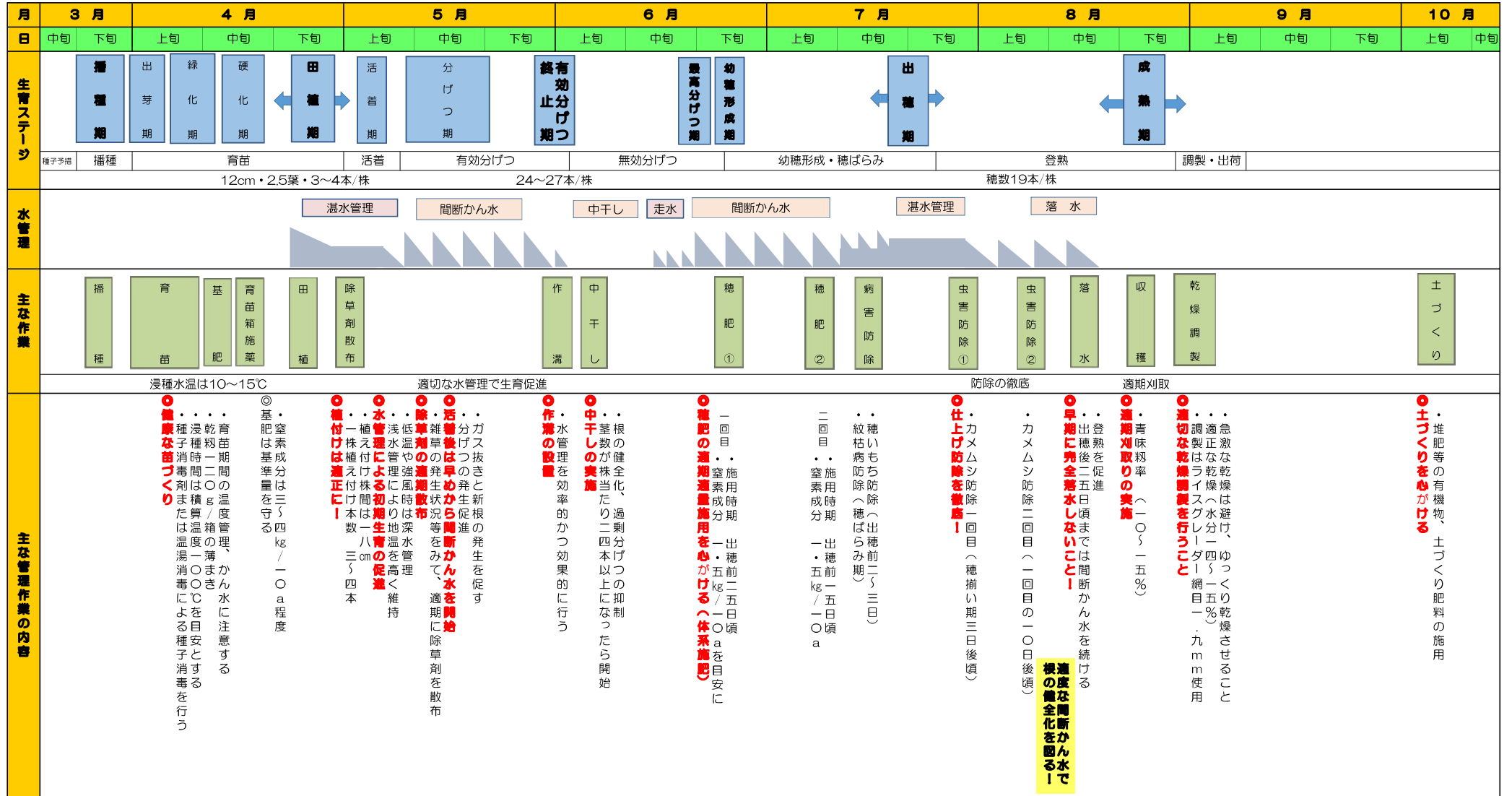
1. 玄米品質が良い。
2. 稈長が短く、倒伏しにくい。
3. 穂発芽しにくい

■注意点

1. 育苗期間が比較的低温で経過するため、特に出芽までの温度管理には注意する。
2. 倒伏には強いが、極端な多肥栽培は避ける。
3. 出穂が早くカメムシ被害を受けやすいので防除を徹底する。
4. 胴割米の発生を防ぐため刈り遅れないようにする。

■収量と収量構成要素の目標値

収量 kg/10a	穂数 本/m ²	籾数 粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g
570	450	30,000	85	22.5



「つぎあかり」栽培ごよみ

栽培上の注意点

- ① 育苗期間は比較的低温の時期となるが、芽が伸びやすい特性があるため、育苗時の温度管理には注意する。
- ② 倒伏しやすい特徴があるため、適切な肥培管理を行う（窒素施肥量は8kg/10a程度とする）。
- ③ 穂数が確保しにくい品種であるため、茎数確保のため疎種や適度な中干しはしない。
- ④ 出穂が早くカメムシ被害等を受けやすいため、出穂後の基幹防除を徹底する。
- ⑤ 早刈は青未熟粒の増加、刈り遅れは割割米が発生するため、適期刈りに取りに留意する。

◇生育・収量目標と収量構成要素

㎡当植付株数	1株穂数	㎡当穂数	1穂粒数	㎡当粒数	登熟歩合	玄米千粒重	収量(玄米)
株/㎡	本/株	本/㎡	粒/穂	粒/㎡	%	g	kg/10a
18.5	17.3	320	97	30,880	83	23.4	600

(株間18cm)

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月																	
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬															
生育ステージ	播種期 出芽期 緑化期 硬化期			田植期 活着期			有効分けつ期 無効分けつ期			最高分けつ期 幼穂形成期			出穂期			成熟期																				
水管理	種子予措			育苗			活着			無効分けつ			幼穂形成・穂ばらみ			登熟																				
水管理				13cm・2.5葉・3~4本/株			17~18本/株			20~23本/株						稈長75cm・穂長20cm・穂数17~18本/株(320本/㎡)																				
水管理				湛水管理			間断かん水			軽い中干し			走水			間断かん水			湛水管理			落水														
主な作業	播種			育苗			基肥 育苗箱施肥			田植 除草剤散布			作溝 中干し			穂肥① 穂肥②			病害防除 虫害防除① 虫害防除②			落水 収穫 乾燥調整 土づくり														
主な管理作業の内容	浸種水温は12~13℃			植付は株間18cm条間30cmが基本			適切な水管理で生育促進			出穂期葉色目安:SPAD値40(葉色板:5)程度			防除の徹底			適期刈取																				
主な管理作業の内容	<p>●健康な苗づくり</p> <p>●育苗期間の温度管理、かん水に注意する</p> <p>●出芽後2週間程度は育苗器を逆さにして管理する</p> <p>●浸種時20~25℃程度を目安とする</p>			<p>●基肥の施用</p> <p>●窒素成分 三ノ四kg/10aを目安に</p> <p>●基肥一発施肥は窒素8kg/10a程度を目安に</p>			<p>●田植時の注意</p> <p>●田植機は株間18cm・条間30cmに調整する</p> <p>●穂数は確保しないため！</p>			<p>●水管理による初期生育の促進</p> <p>●低温や強い風による地温の低下を管理し、湛水による生育促進を図る</p>			<p>●除草剤の適期散布</p> <p>●雑草の発生状況等をみて適期に除草剤を散布する</p>			<p>●作溝の実施</p> <p>●水管理を効果的かつ効果的に行う</p>			<p>●軽めの中干しの実施</p> <p>●根の健全化、無効分けつ防止のため、中干しを始める</p>			<p>●穂肥の適期適量施肥を心がける</p> <p>●一回目の施用時期 出穂前二五~二〇日頃(幼穂長一~三mm程度)</p> <p>●二回目の施用時期 一回目の一〇日後(出穂前一五~一〇日頃)</p> <p>●窒素成分 二kg/10aを目安に</p>			<p>●虫害防除</p> <p>●カメムシ防除(一回目(穂揃期の一〇日後頃)・二回目(穂揃期の一〇日後頃))</p> <p>●カメムシ防除(一回目(穂揃期の一〇日後頃)・二回目(穂揃期の一〇日後頃))</p>			<p>●落水</p> <p>●出穂後二〇日頃までは間断かん水を続ける</p> <p>●早期に完全落水しないこと</p>			<p>●適期刈取の実施</p> <p>●積算温度(九〇〇~一〇〇〇℃程度)</p> <p>●適期刈取の実施</p>			<p>●土づくり</p> <p>●秋土壌改良による施用、堆肥等の有機物施用による土づくり</p>		
主な管理作業の内容	<p>【注意！】</p> <p>●積み重ね出芽時に高温条件に長時間置くと、この部分(メソコチル)が伸長し、根張りが悪くマットが崩れやすくなり、移植時に欠株が生じやすくなる。</p>			<p>●大粒粒のため</p> <p>●注意</p>			<p>●窒素施肥量 (地力によって加減する)</p> <p>●穂数確保のため</p> <p>●基肥: 7~8 kg/10a</p> <p>●基肥: 3~4 kg/10a</p> <p>●穂肥: 4 kg/10a (2kg/10a×2回)</p> <p>●基肥一発: 8kg/10a程度</p>			<p>●過剰な中干しは</p> <p>●注意</p>			<p>●倒伏防止のため</p> <p>●地力量を加減する</p>			<p>●倒伏注意！</p>			<p>●早刈りまたは刈り遅れに</p> <p>●ならないように注意！</p>																	

「きぬむすめ」栽培暦

栽培適地

- ① 平坦部～中山間部（標高300m以下）
- ② 早種～普通期栽培（5月移植）に適する。
- ③ 多収栽培には土壌が肥沃な地域に適する。

注意点

- ① 過度な多肥栽培は倒伏や厚米の増加が発生するため、適切な肥培管理を行う。
- ② いもち病耐病性は強くないため、適切な防除を行う。
- ③ 白葉枯病耐病性はやや弱いため、常発地での栽培は避ける。
- ④刈遅れは穂発芽や胴割れが発生するため、適期刈りに留意する。

種付株間・集積密度 cm・株/m ²	1株穂数 本/株	m ² 当穂数 本/m ²	1穂粒数 粒/穂	m ² 当粒数 粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g	収量(精玄米) kg/10a
株間 集積密度 21・15.9	22.0	350	92	32,000	83.0	22.6	600

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月													
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬												
生育ステージ																																			
	種子予措			播種			育苗			活着			有効分げつ			無効分げつ			幼穂形成・穂ばらみ			登熟			調製・出荷										
	12cm・2.5葉・3～4本/株			21～23本/株			30～32本/株			穂長80cm・穂長20cm・穂数21～23本/株(350本/m ²)																									
水管理																																			
	<p>湛水水温は10～15℃</p> <p>適切な水管理で生育促進</p> <p>幼穂形成期の葉色は38以上(SPAD値)</p> <p>防除の徹底</p> <p>適期刈取</p>																																		
主な作業	<p>土づくり</p> <p>播種</p> <p>育苗</p> <p>基肥</p> <p>育苗箱施肥</p> <p>田植</p> <p>除草剤散布</p> <p>溝</p> <p>中干し</p> <p>中間追肥</p> <p>穂肥①</p> <p>穂肥②</p> <p>病害防除</p> <p>虫害防除①</p> <p>虫害防除②</p> <p>落水</p> <p>収穫</p> <p>乾燥調製</p>																																		
	<p>●土づくりを心がける</p> <p>堆肥等の有機物施用、土づくり肥料の施用</p> <p>●健康な苗づくり</p> <p>育苗期間の温度管理、かん水に注意する</p> <p>浸種時(20℃)は、箱の温度は温湯(60℃)程度に注意する</p> <p>●適期刈取の実施</p> <p>登熟を促進</p> <p>出穂後5日頃までは間断かん水を続ける</p> <p>●早期に完全落水しないこと!</p> <p>仕上げ水分(一五〇～一五〇%)</p> <p>●適切な乾燥調製を行うこと</p> <p>調製はライスグレイダー(幅目一・九〇ミリ)</p> <p>●多収のために!</p> <p>多肥をしつかりと!</p> <p>中干し期間は土性により調整する!</p> <p>●雑草の発生状況等をみて、適期に除草剤を散布</p> <p>●除草剤の適期散布</p> <p>低温や強風時は深水管理により地温を高く維持</p> <p>●水管理による初期生育の促進</p> <p>ガス抜きと新根の発生を促す</p> <p>●活種後は早めから間断かん水を開始</p> <p>分けつ時の発生促進</p> <p>●中干しの実施</p> <p>根の健全化、過剰分げつを抑制した開始</p> <p>●茎数が少なく葉色がうすい場合は中間追肥を施用</p> <p>●穂肥の適期適量施用を心がける(体系施肥)</p> <p>一回目 施用成時期 出穂前二〇日頃(幼穂長二mm)</p> <p>二回目 施用成時期 出穂前二〇日頃(一〇aを目安に)</p> <p>●仕上げ防除を徹底!</p> <p>●紋枯病防除(穂ばらみ期)</p> <p>●カメムシ防除(一回目(穂揃い期三日後頃))</p> <p>●カメムシ防除(二回目(一〇日後頃))</p>																																		
主な管理作業の内容	<p>●土づくりを心がける</p> <p>堆肥等の有機物施用、土づくり肥料の施用</p> <p>●健康な苗づくり</p> <p>育苗期間の温度管理、かん水に注意する</p> <p>浸種時(20℃)は、箱の温度は温湯(60℃)程度に注意する</p> <p>●適期刈取の実施</p> <p>登熟を促進</p> <p>出穂後5日頃までは間断かん水を続ける</p> <p>●早期に完全落水しないこと!</p> <p>仕上げ水分(一五〇～一五〇%)</p> <p>●適切な乾燥調製を行うこと</p> <p>調製はライスグレイダー(幅目一・九〇ミリ)</p> <p>●多収のために!</p> <p>多肥をしつかりと!</p> <p>中干し期間は土性により調整する!</p> <p>●雑草の発生状況等をみて、適期に除草剤を散布</p> <p>●除草剤の適期散布</p> <p>低温や強風時は深水管理により地温を高く維持</p> <p>●水管理による初期生育の促進</p> <p>ガス抜きと新根の発生を促す</p> <p>●活種後は早めから間断かん水を開始</p> <p>分けつ時の発生促進</p> <p>●中干しの実施</p> <p>根の健全化、過剰分げつを抑制した開始</p> <p>●茎数が少なく葉色がうすい場合は中間追肥を施用</p> <p>●穂肥の適期適量施用を心がける(体系施肥)</p> <p>一回目 施用成時期 出穂前二〇日頃(幼穂長二mm)</p> <p>二回目 施用成時期 出穂前二〇日頃(一〇aを目安に)</p> <p>●仕上げ防除を徹底!</p> <p>●紋枯病防除(穂ばらみ期)</p> <p>●カメムシ防除(一回目(穂揃い期三日後頃))</p> <p>●カメムシ防除(二回目(一〇日後頃))</p>																																		
	<p>高密度播種 250g/箱</p> <p>慣行苗 120g/箱</p>																																		

「佐香錦」栽培暦

■栽培のポイント

1. 移植時期は5月5日～15日とする。
2. 施肥量はコシヒカリ並みとし、多肥は避ける。
3. いもち病の防除を徹底する。

■特性

【優 点】

1. 醸造適性が優れる。
2. 多収である。
3. 千粒重が重い。
4. 品質が良い。

【欠 点】

1. 葉いもちにやや弱い。
2. 稈長が長く、倒伏にやや弱い。
3. 耐冷性はやや弱い。

月 日	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月																																					
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬																																				
生育ステージ	播種期			出芽期			緑化期			硬化期			田植期			活着期			分けつけ期			有効分けつけ期			最高分けつけ期			幼穂形成期			出穂期			成熟期																						
	種子予播	播種		育苗			活着			有効分けつ			無効分けつ			幼穂形成・穂ばらみ			登熟			調製・出荷																																		
水管理				湛水管理			間断かん水			中干し			走水			間断かん水			湛水管理			落水																																		
	播種			育苗			基肥			育苗箱施肥			田植			除草剤散布						作溝			中干し						穂肥①			穂肥②			病害防除			虫害防除①			虫害防除②			落水			収穫			乾燥調製			土づくり	
主な作業	浸種水温は10～15℃									適切な水管理で生育促進												防除の徹底						適期刈取																												
	<ul style="list-style-type: none"> ◎健康な苗づくり ・浸種時間は20g/箱の薄まき ・乾粒時間100℃を目安とする ・種子消毒剤または温度消毒による種子消毒を行う ・育苗期間の温度管理、かん水に注意する ・基肥は控えめに ◎基肥 ・窒素成分は3kg/10a以内 ・有機物多投田では減肥 ・側条施肥なら2・4kg/10a以内 			<ul style="list-style-type: none"> ◎田植は適正に! ・1株植え付け本数は18cm三つ四本 ・浅水管理により地温を高く維持 ◎水管理による初期生育の促進 ・低温や強風時は深水管理 ◎除草剤の適期散布 ・雑草の発生状況等を見て、適期に除草剤を散布 ◎活着後は早めから間断かん水を開始 ・ガサ抜きと新根の発生を促す ・分けつ後の発生促進 			<ul style="list-style-type: none"> ・中間追肥はしない ◎中干しの実施 ・茎数が株当たり一九本以上になったら開始 ◎作溝の設置 ・水管理を効率的かつ効果的に行う ・葉いもち防除 粒剤を発病の一〇～七日前 			<ul style="list-style-type: none"> ◎穂肥の適期適量施用を心がける(体系施肥) ・一回目 施用時期 出穂前一八日頃(幼穂長八cm) ・窒素成分 一〇kg/10aを目安に ◎減成分肥期が低湿の時は深水管理 ・二回目 施用時期 出穂前一〇日頃 ・窒素成分 一〇kg/10a以内 ◎減成分肥期が低湿の時は深水管理 ・穂いもち防除(穂ばらみ期) ・紋枯病防除(穂ばらみ期) ・二回目 施用時期 出穂前一〇日頃 ・窒素成分 一〇kg/10a以内 			<ul style="list-style-type: none"> ◎仕上げ防除を徹底! ・カメムシ防除一回目(穂揃い期三日後頃) ・カメムシ防除二回目(一回目の一〇日後頃) 			<ul style="list-style-type: none"> ◎早期に完全落水しないこと! ・登熟を促進 ・出穂後二五日頃までは間断かん水を続ける ◎適期刈取りの実施 ・青味利率 (一〇～一五%) ◎適切な乾燥調製を行うこと ・急激な乾燥は避け、ゆっくり乾燥させること ・適正な乾燥(水分一四～一五%) ・調製はライスグレイダー(網目二・〇mm使用) 			<ul style="list-style-type: none"> ◎土づくり ・堆肥等の有機物施用、土づくり肥料の施用 ◎土づくりを心がける 																																					
主な管理作業の内容																			湛水管理 湛水管理を徹底する。																																					

「神の舞」栽培暦

■栽培のポイント

1. 移植時期は5月上旬とする。
2. 施肥量はコシヒカリ並みとし、多肥は避ける。
3. いもち病の防除を徹底する。

■特性

- | | |
|---|--|
| 【優 点】
1. 耐冷性が強である。
2. 多収である。
3. 千粒重が重い。
4. 品質が良い。
5. 醸造適性が優れる | 【欠 点】
1. 稈長が長く、倒伏にやや弱い。
2. 白葉枯病に弱い。 |
|---|--|

月	4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月			10 月									
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬								
生育ステージ	播種期 → 出芽期 → 緑化期 → 硬化期			← 田植期 → 活着期			分けつけ期			終有効分けつけ期 → 最高分けつけ期			← 出穂期 →			← 成熟期 →												
	種子予備	播種	育苗			活着			有効分けつ			無効分けつ			登熟			調製・出荷										
水管理				湿水管理			間断かん水			中干し			走水			間断かん水			湿水管理		落水							
	浸種水温は10~15℃			適切な水管理で生育促進			防除の徹底			適期刈取																		
主な作業	播種	育苗	基肥	育苗箱施肥	田植	除草剤散布	作溝	中干し	穂肥①	穂肥②	病害防除	虫害防除①	虫害防除②	落水	収穫	乾燥調製	土づくり											
	浸種水温は10~15℃						適切な水管理で生育促進						防除の徹底						適期刈取									
主な管理作業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 乾粒期間の温度管理、かん水に注意する ● 浸種時間は積算温度100℃を目安とする ● 種子消毒剤または温度湯消毒による種子消毒を行う ● 育苗期間の温度管理、かん水に注意する ● 乾粒期間の温度管理、かん水に注意する ● 育苗期間の温度管理、かん水に注意する ● 乾粒期間の温度管理、かん水に注意する ● 育苗期間の温度管理、かん水に注意する ● 乾粒期間の温度管理、かん水に注意する 						<ul style="list-style-type: none"> ● 葉色はやや淡いが、中間追肥はしない ● ガス抜きと新根の発生を促す ● 分けつ時の発生促進 ● 活着後は早めから間断かん水を開始 ● 雑草の発生状況等をみて、適期に除草剤を散布 ● 低温や強風時は深水管理 ● 浅水管理により地温を高く維持 ● 水管理による初期生育の促進 ● 一株植えは本数18cm三本 ● 一株植えは本数18cm四本 ● 穂付けは適正に！ 						<ul style="list-style-type: none"> ● 葉いもち防除 粒剤を発病の10~7日前 ● 根の健全化、過剰分けつ抑制 たら開始 ● 茎数が株当たり一六本以上になったら開始 ● 中干しの実施 ● 水管理を効率的かつ効果的に行う ● 作溝の設置 ● 一回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長8mm） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長10mm） ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長12mm） ● 穂肥の適期適量施用を心がける（体系施肥） ● 一回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長8mm） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長10mm） ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長12mm） 						<ul style="list-style-type: none"> ● 穂いもち防除（出穂前二~三日） ● 紋枯病防除（穂ばらみ期） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 減収分製期が恒置時は深水管理 ● カメムシ防除 一回目（穂揃い期三日後頃） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 穂いもち防除（出穂前二~三日） ● 紋枯病防除（穂ばらみ期） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 減収分製期が恒置時は深水管理 ● カメムシ防除 一回目（穂揃い期三日後頃） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 						<ul style="list-style-type: none"> ● 登熟を促進 ● 出穂後二五日頃までは間断かん水を続ける ● 早期に完全落水しないこと！ ● 青味籾率（一〇~一五%） ● 適期刈取りの実施 ● 急激な乾燥は避け、ゆっくり乾燥させること ● 適正な乾燥（水分一四~一五%） ● 調製はライスグレイダー 網目二・〇mm使用 ● 適切な乾燥調製を行うこと 		<ul style="list-style-type: none"> ● 堆肥等の有機物施用、土づくり肥料の施用 ● 土づくりを心がける 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 葉色はやや淡いが、中間追肥はしない ● ガス抜きと新根の発生を促す ● 分けつ時の発生促進 ● 活着後は早めから間断かん水を開始 ● 雑草の発生状況等をみて、適期に除草剤を散布 ● 低温や強風時は深水管理 ● 浅水管理により地温を高く維持 ● 水管理による初期生育の促進 ● 一株植えは本数18cm三本 ● 一株植えは本数18cm四本 ● 穂付けは適正に！ 						<ul style="list-style-type: none"> ● 葉いもち防除 粒剤を発病の10~7日前 ● 根の健全化、過剰分けつ抑制 たら開始 ● 茎数が株当たり一六本以上になったら開始 ● 中干しの実施 ● 水管理を効率的かつ効果的に行う ● 作溝の設置 ● 一回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長8mm） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長10mm） ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長12mm） ● 穂肥の適期適量施用を心がける（体系施肥） ● 一回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長8mm） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長10mm） ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃（幼穂長12mm） 						<ul style="list-style-type: none"> ● 穂いもち防除（出穂前二~三日） ● 紋枯病防除（穂ばらみ期） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 減収分製期が恒置時は深水管理 ● カメムシ防除 一回目（穂揃い期三日後頃） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 穂いもち防除（出穂前二~三日） ● 紋枯病防除（穂ばらみ期） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 減収分製期が恒置時は深水管理 ● カメムシ防除 一回目（穂揃い期三日後頃） ● 二回目 施用時期 出穂前一日頃 ● 三回目 施用時期 出穂前一日頃 						<ul style="list-style-type: none"> ● 登熟を促進 ● 出穂後二五日頃までは間断かん水を続ける ● 早期に完全落水しないこと！ ● 青味籾率（一〇~一五%） ● 適期刈取りの実施 ● 急激な乾燥は避け、ゆっくり乾燥させること ● 適正な乾燥（水分一四~一五%） ● 調製はライスグレイダー 網目二・〇mm使用 ● 適切な乾燥調製を行うこと 		<ul style="list-style-type: none"> ● 堆肥等の有機物施用、土づくり肥料の施用 ● 土づくりを心がける 							

「縁の舞」栽培ごよみ

栽培のポイント

- ① 移植時期は5月中旬から下旬とする
- ② 稈長が長いので適切な施肥・水管理により倒伏を防ぐ
- ③ いもち病には弱いので箱施肥や本田防除を徹底する
- ④ 籾重型品種のため基肥は控えめにして過剰生育を防ぎ、適切な穂肥施用により玄米の登熟を高める
- ⑤ 標高が低い地域では出穂が早まり、千粒重が低下する傾向がある
- ⑥ 割割米の発生を防ぐため、土づくり肥料やケイ酸質肥料を必ず施用するとともに刈り遅れしないよう注意する
- ⑦ 株間が広すぎると穂揃いが悪く登熟にバラツキが出やすい

- 【長所】**
- ① 千粒重が重く大粒である
 - ② 「山田錦」より10%程度多収
 - ③ 穂発芽・脱粒しにくい
 - ④ 育苗時の苗立ち・苗揃いが良好
 - ⑤ 品質が良く醸造適性も良好
 - ⑥ 熟期がやや早く耐冷性が強いため山間地での栽培にも適応
- 【短所】**
- ① 稈長が長い
 - ② いもち病に弱い

◇生育・収量目標と収量構成要素

播付株間	1株穂数	m ² 当たり穂数	1穂穂数	m ² 当たり穂数	登熟歩合	玄米千粒重	収量
cm	本/株	本/m ²	粒/穂	粒/m ²	%	g	kg/10a
18	14.0	260	90	23,000	80	28.5	520
21	16.0						



‘縁の舞’ ‘改良雄町’ ‘山田錦’

月	3月			4月			5月			6月			7月			8月			9月			
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	
生育ステージ				播種期	出芽期	緑化期	硬化期	田植期	活着期	分けつけ期	終有効止分けつけ期	最高分けつけ期	幼穂形成期	出穂期	出穂期	出穂期	出穂期	出穂期	成熟期	成熟期	成熟期	
水管理				13cm・2.2葉・3~4本/株			14~16本/株			20~23本/株			穂数14~16本/株									
主な作業				播種	育苗	育苗箱施肥	基肥	田植	除草剤散布	溝	中干し	中干し	追肥①	追肥②	病害虫防除①	病害虫防除②	病害虫防除③	落	水	収	種	乾燥調整
主な管理作業の内容	<p>① 土づくりを心がける</p> <p>・ 堆肥等の有機物施用による土づくり肥料を徹底</p> <p>・ ケイ酸・苦土含有資材の施用</p> <p>○登熟歩合向上</p> <p>○千粒重向上</p> <p>○精米時の碎米率が低下</p> <p>2018~2020年</p>			<p>① 健康な種子の確保</p> <p>・ 浸漬乾燥</p> <p>・ 乾草の消毒</p> <p>・ 一期二期の消毒</p> <p>・ 温度/湿度の管理</p> <p>・ 一箱管の消毒</p> <p>・ 播種時の注意</p> <p>・ 種子消毒</p>			<p>① 適切な移植</p> <p>・ 地力に合わせた施肥</p> <p>・ 育苗時の管理</p> <p>・ 田植時の注意</p> <p>・ 除草剤の散布</p>			<p>① 適切な水管理で生育を促進</p> <p>・ 水管理の効果的に行う</p> <p>・ 中干しの実施</p> <p>・ 小ヒビが入る程度の中干し</p> <p>・ 茎が倒れやすくなるので注意</p>			<p>① 防除の徹底</p> <p>・ 穂肥の適量施用</p> <p>・ 追肥の適量施用</p> <p>・ 病害虫防除</p>			<p>① 適期刈取</p> <p>・ 登熟後の刈取</p> <p>・ 乾燥調整</p> <p>・ 水分の調整</p>						

「ヒメノモチ」栽培暦

■栽培適地等

1. 県内全域(特に山間から中山間部の地力中庸地に適する)。
2. 早期栽培に適する。

■長所

1. 玄米品質が良い。
2. 収量性が高い。
3. 強稈で倒伏しにくい。
4. いもち病抵抗性がやや強い。
5. 耐冷性がやや強い。

■注意点

1. 倒伏には強いが極端な多肥栽培は避ける。
2. 出穂が早くカメムシ被害を受けやすいので防除を徹底する。
3. 穂発芽しやすいので適期刈り取りを心がける。
4. 白葉枯病抵抗性が劣るので、常発地での栽培は避ける。
5. うるち品種との識別性に欠けるので混種に注意する。

■収量と収量構成要素の目標値

収量 kg/10a	穂数 本/m ²	籾数 粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g
540	330~350	28,000~29,000	82	23.0

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月							
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬						
生育ステージ	播種期	出芽期	緑化期	硬化期	田植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	最高分げつ期	幼穂形成期	出穂期	登熟期	成熟期													
水管理	12cm・2.5葉・3~4本/株			活着			19本/株			24本/株			穂数19本/株													
主な作業	播種	育苗	基肥	育苗箱施肥	田植	除草剤散布	溝中干し	種肥	種肥	病害防除	虫害防除①	虫害防除②	落水	収穫	乾燥調製	土づくり										
主な管理作業の内容	浸種水温は10~15℃ ◎ 基肥は基準量を守る ◎ 窒素成分は三〜四kg / 一〇a程度 ◎ 乾糶一〇〇g / 箱の薄まき ◎ 浸種時間は積算温度一〇〇℃を目安とする ◎ 種子消毒剤または温湯消毒による種子消毒を行う ◎ 雑草の発生状況等を見て、適期に除草剤を散布 ◎ 雑草の発生促進 ◎ 雑草の発生促進 ◎ 雑草の発生促進				適切な水管理で生育促進 ◎ 低温や強風時は深水管理 ◎ 浅水管理により地温を高く維持 ◎ 水管理による初期生育の促進 ◎ 一株植えは本数三〜四本 ◎ 一株植えは本数三〜四本				◎ 根の健全化、過剰分げつの抑制 ◎ 茎数が株当たり一九本以上になったら開始 ◎ 中干しの実施 ◎ 水管理を効果的かつ効果的に行う ◎ 水管理の設置				◎ 穂肥の適期適量施用を心がける(体系施肥) ◎ 一回目... 施用時期 出穂前二五〜二〇日頃 ◎ 窒素成分 一・五〜二kg / 一〇aを目安に ◎ 二回目... 施用時期 出穂前一五〜一〇日頃 ◎ 窒素成分 一・五〜二kg / 一〇a				◎ 防除の徹底 ◎ 紋枯もち防除(出穂前二〜三日) ◎ 穂病防除(穂ばらみ期) ◎ 雑草の発生促進 ◎ 雑草の発生促進 ◎ 雑草の発生促進				◎ 適期刈取 ◎ 登熟を促進 ◎ 登熟後二五日頃までは間断かん水を続ける ◎ 早期に完全落水しないこと! ◎ 青味籾率(一〇〜一五%) ◎ 適期刈取りの実施 ◎ 急激な乾燥は避け、ゆっくり乾燥させること ◎ 適正な乾燥(水分量一四〜一五%) ◎ 調整はライスグライダー(網目一・九mm使用)				◎ 土づくり ◎ 堆肥等の有機物施用、土づくり肥料の施用 ◎ 土づくりを心がける	

「ココノエモチ」栽培暦

■栽培適地等

1. 県内全域(特に平坦部から中山間部の地力中庸から肥沃地に適する)
2. 早期栽培に適する

■長所

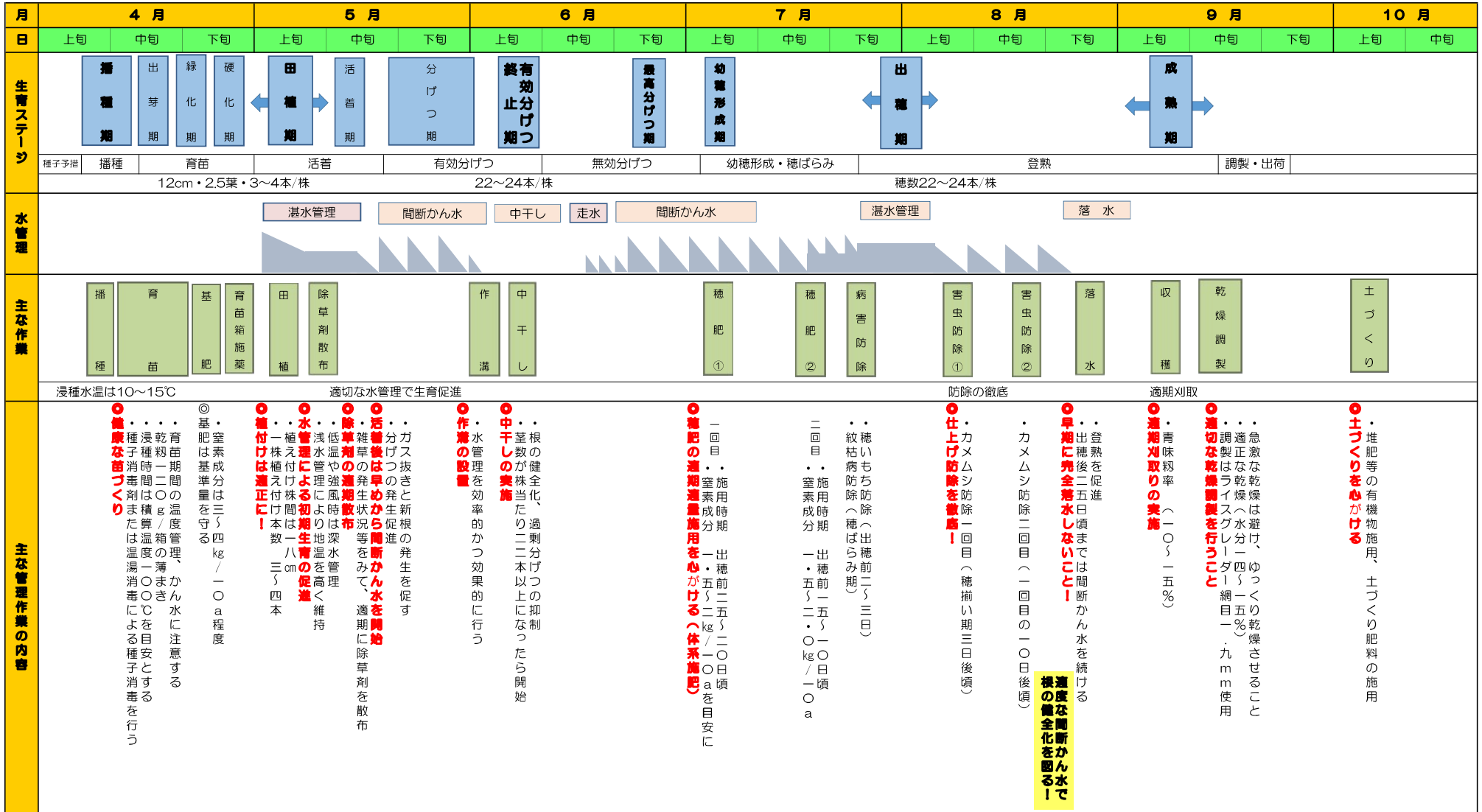
1. 餅質が良い
2. 収量性が高い
3. 倒伏しにくい
4. 穂発芽しにくい
5. 耐冷性がやや強い
6. 籾の先端が赤褐色で識別性が高い

■注意点

1. 倒伏には強いが極端な多肥栽培は避ける
2. 紋枯病に罹病しやすいため、防除を徹底する
3. 白葉枯病抵抗性がやや劣るので、常発地での栽培は避ける

■収量と収量構成要素の目標値

収量 kg/10a	穂数 本/m ²	籾数 粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g
540	400~450	29,000~30,000	82	22.5



「ミコトモチ」栽培暦

■栽培適地等

1. 標高200m以下の平坦地から中山間地とする。ただし、8月中～下旬の1日の平均気温が20℃を下回る地域では作付を避ける。
2. 日照条件の悪い地域は避ける。
3. 移植時期は5月上～中旬とする。

■長所

1. 餅の外観、食味が良い
2. 籾の先端が褐色で芒がやや長く、識別性が高い。
3. 収量性が高い。

■注意点

1. 葉いもち抵抗性はやや弱いため、適切な防除を行う。
2. 倒伏を防ぐため、多肥栽培はしない。
3. 穂発芽防止のため、適期刈り取りに努める。
4. 胴切米発生防止のため、適地に作付け、移植適期を守る。

■収量と収量構成要素の目標値

収量 kg/10a	穂数 本/m ²	籾数 粒/m ²	登熟歩合 %	玄米千粒重 g
540	390～410	26,000	80	26.0

月	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月																							
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬																						
生育ステージ	播種期			育苗期			有効分けつ期			無効分けつ期			出穂期			成熟期																										
	種子予措			育苗			有効分けつ			無効分けつ			登熟			調製・出荷																										
水管理	12cm・2.5葉・3～4本/株			22本/株程度			穂数21～22本/株																																			
	灌水管理			間断かん水			中干し			走水			間断かん水			灌水管理			落水																							
主な作業	播種			育苗			田植			除草剤散布			中干し			穂肥			穂肥			病害防除			害虫防除①			害虫防除②			落水			収穫			乾燥調製			土づくり		
	浸種水温は10～15℃			適切な水管理で生育促進												防除の徹底			適期刈取																							
主な管理作業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ●健康な苗づくり ●基肥 ●育苗期間 ●浸種時間 ●種子消毒 			<ul style="list-style-type: none"> ●基肥 ●育苗期間 ●浸種時間 ●種子消毒 			<ul style="list-style-type: none"> ●田植 ●除草剤散布 ●水管理 ●間断かん水 ●中干し 			<ul style="list-style-type: none"> ●中干し ●走水 ●間断かん水 ●灌水管理 ●落水 			<ul style="list-style-type: none"> ●穂肥 ●穂肥 ●病害防除 ●害虫防除① ●害虫防除② ●落水 ●収穫 ●乾燥調製 ●土づくり 			<ul style="list-style-type: none"> ●防除の徹底 ●適期刈取 			<ul style="list-style-type: none"> ●健康な苗づくり ●基肥 ●育苗期間 ●浸種時間 ●種子消毒 			<ul style="list-style-type: none"> ●田植 ●除草剤散布 ●水管理 ●間断かん水 ●中干し 			<ul style="list-style-type: none"> ●中干し ●走水 ●間断かん水 ●灌水管理 ●落水 			<ul style="list-style-type: none"> ●穂肥 ●穂肥 ●病害防除 ●害虫防除① ●害虫防除② ●落水 ●収穫 ●乾燥調製 ●土づくり 			<ul style="list-style-type: none"> ●防除の徹底 ●適期刈取 											
	<ul style="list-style-type: none"> ●健康な苗づくり ●基肥 ●育苗期間 ●浸種時間 ●種子消毒 			<ul style="list-style-type: none"> ●田植 ●除草剤散布 ●水管理 ●間断かん水 ●中干し 			<ul style="list-style-type: none"> ●中干し ●走水 ●間断かん水 ●灌水管理 ●落水 			<ul style="list-style-type: none"> ●穂肥 ●穂肥 ●病害防除 ●害虫防除① ●害虫防除② ●落水 ●収穫 ●乾燥調製 ●土づくり 			<ul style="list-style-type: none"> ●防除の徹底 ●適期刈取 			<ul style="list-style-type: none"> ●健康な苗づくり ●基肥 ●育苗期間 ●浸種時間 ●種子消毒 			<ul style="list-style-type: none"> ●田植 ●除草剤散布 ●水管理 ●間断かん水 ●中干し 			<ul style="list-style-type: none"> ●中干し ●走水 ●間断かん水 ●灌水管理 ●落水 			<ul style="list-style-type: none"> ●穂肥 ●穂肥 ●病害防除 ●害虫防除① ●害虫防除② ●落水 ●収穫 ●乾燥調製 ●土づくり 			<ul style="list-style-type: none"> ●防除の徹底 ●適期刈取 														

ポイント	1. 優良品種の選定
	2. 排水対策と土づくり
	3. 適期播種と栽植密度の確保
	4. 適切な施肥
	5. 適期収穫

小麦栽培ごよみ

目標	水分 12.5%以下 整粒歩合 80%以上の良質小麦生産
----	---------------------------------

生育ステージ																														
	月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月				
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
栽培管理	ほ場選定 土作り 種子消毒 作溝			基肥 耕起砕土 播種 除草剤散布			除草剤散布			追肥			穂肥			病害虫防除 実肥 病害虫防除			成熟期 収穫			乾燥・調製								
技術の内容(資材は10アール当り)	排水のよい圃場を選ぶ。			種子消毒薬剤による浸漬、粉衣または吹き付け処理を行う。 排水溝深さ20〜30cm、5mおき 苦土石灰100〜200kg等、完熟堆肥2〜3t			窒素六〜八kg、リン酸八〜10kg、カリ八kg 平坦部十一月上〜中旬、ドリル播きでは八〜10kg。 耕起はできるだけ深く、砕土は丁寧に行う。			除草剤を播種後、土壌処理する。			広葉雑草、スズメノテッポウが多い場合には、除草剤を茎葉処理する。			窒素二〜三kg			窒素一〜二kg、カリ二kg			赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。 窒素三〜四kg			穂水分30%以下で収穫 穂首が黄化し、粒がろう状の硬さに達したときが成熟期			篩目二：〇mm、整粒歩合80%以上、水分二：五%以下		

ポイント	1	排水対策と土づくり
	2	適期播種（11月上旬）
	3	適切な施肥と赤かび病防除
	4	適期収穫（梅雨入り前）

ミナミノカオリ栽培ごよみ

利点	○稈長が短く倒伏しにくい ○成熟期が農林61号より3日程度早い
欠点	○穂発芽の恐れがある ○赤かび病にやや弱い

☆穂発芽性がやや易で、赤かび病にやや弱いため、梅雨入り前の収穫を目指します。

☆このため播種期は11月上旬とし、播種作業が遅れないようにしましょう。

生育ステージ																											
	月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月	
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培管理	ほ場選定 土作り 種子消毒			基肥 耕起 播種			除草剤散布			追肥			穂肥			実肥			病虫害防除			収穫			乾燥・調製		
技術の内容(資材は10アール当り)	種子消毒薬剤による浸漬、粉衣または吹き付け処理を行う 排水溝深さ20〜30cm、5mおき 苦土石灰100〜200kg等、完熟堆肥2〜3t 排水のよい圃場を選ぶ。			播種期は11月上旬、ドリル播きでは播種量8〜10kg、 耕起はできるだけ深く、砕土は丁寧に行う。 窒素六〜八kg、リン酸八〜10kg、カリ八kg			広葉雑草等が多い場合には、除草剤を茎葉処理する。			窒素二〜三kg			窒素一〜二kg、カリ二kg			赤かび病防除のため、穂揃期に必ず薬剤散布を行う。 出穂10日後に窒素三〜四kg			篩目二・二mm、整粒歩合八〇%以上、水分二・五%以下 成熟期から2日後以降、穀粒水分三〇%以下で速やかに収穫 穂首が黄化し、粒がろう状の硬さに達したときが成熟期 成熟期に降雨が続くと穂発芽しやすいので注意!								
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">播種が遅れないこと</div>																										
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">小麦栽培の成功のカギは排水対策・ほ場の周囲とほ場内5m間隔の明渠</div>																										

ポイント	1. 優良品種の選定 2. 排水対策と土づくり 3. 適期播種と栽植密度の確保 4. 適切な施肥 5. 適期収穫
------	--

ビール大麦栽培ごよみ

目標	発芽勢 98%以上 粗蛋白含量 10~11%の範囲内 水分 13%以下 2.5mm 以上の粒が 95%以上
----	--

生育ステージ																											
	月	10月			11月			12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月	
旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培管理	ほ場選定 土作り 種子消毒 作溝			基肥 播種 耕起碎土 除草剤散布			除草剤散布			追肥			穂肥			病害虫防除			病害虫防除			成熟期 収穫 乾燥調整					
技術の内容(資材は10アール当り)	排水のよい圃場を選ぶ。			種子消毒薬剤による浸漬、粉衣または吹き付け処理を行う。 排水溝深さ20~30cm、5mおき 苦土石灰150~200kg等、完熟堆肥2~3t			播種後に除草剤を土壌処理する。 平坦部11月上旬、ドリル播きでは8~10kg 耕起はできるだけ深く、碎土は丁寧に行う。			窒素6~8kg、リン酸8~10kg、カリ8kg			広葉雑草、スズメノテッポウが多い場合には除草剤を茎葉処理する。 窒素2~3kg			窒素1~2kg、カリ2kg			赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。			赤かび病防除のため、必ず薬剤散布を行う。			篩目2.5mm、整粒歩合95%以上、水分13%以下 穀粒水分25%以下(穂首湾曲七~八割で収穫) 穂首が黄化し、粒がろう状の硬さに達したときが成熟期		

大豆栽培ごよみ

生育ステージ																		
	6月			7月			8月			9月			10月			11月		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
栽培管理	除草剤散布 耕起播種 基肥 種子準備 土壌改良 排水対策	中耕培土	中耕培土	畦間灌水	害虫防除	畦間灌水	紫斑病防除 害虫防除	紫斑病防除 害虫防除	害虫防除	収穫	乾燥	調製						
	播種直後に除草剤を土壌処理する 耕起・播種はできるだけ同じ日に行う 窒素一リン酸八カリ8kg/10a 紫斑・褐斑粒等を除き種子消毒する 苦土石灰100～150kg等 補助暗きよ・明きよの施工	第2本葉展開期に子葉節まで行う	第5本葉展開期に第1本葉節まで行う	開花後土が極端に乾く場合は灌水する	害虫の発生状況により適宜行う	開花30日後害虫防除を兼ねて行う	開花40日後害虫防除を兼ねて行う	害虫の発生状況により適宜行う	火力乾燥は子実水分30%以下で行う コンバインは茎水分40%以下が適期									
ポイント	基盤整備排水基準値参照				幼莢期は最も水が必要	カメムシ類	カメムシ類	ハスモンヨトウ	粒度70%以上 目調整粒歩合八五%以上 送風温度は三五℃以下 汚損粒の防止									